

令和5年度南幌町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、空知平野の南西部に位置し、水田面積における主食用米面積の割合が約32%となっている。転作作物では、麦・大豆の割合が多く、土地利用型農業の生産性向上を図っている。

担い手への土地の集積が進む中、労働力の不足が課題となりつつある。

主食用米の需要が減少し、水稲作付面積が減少傾向となっている。

そのほか、麦・大豆については、雑草、地力の低下や排水不良、病害虫被害等による品質・収益性の低下が課題となっており、圃場間・生産者間での生産性等の変動が見られる状況にあり、格差の是正が必要となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域では、キャベツをはじめ、多様な高収益作物を生産しており、作付面積の維持・拡大により、一層の産地強化を図る必要がある。また、高収益作物の二毛作への支援を行うことで、更なる作付面積の維持・拡大を図ると共に、農地の高度利用による収益力の強化を図る。

転作作物については、適正な輪作により小麦作付への偏重を是正し、各作物の単収及び品質向上を図るとともに、省力化技術の推進により、安定的な供給や労働力不足の解消を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域では、需要に応じた水稲生産を行う中で、直播栽培等による省力化や生産基盤の整備による生産性の向上を図ることで、水張面積の維持に取り組んでいる。水田の利用状況の点検を実施することにより、現状の把握に努め、水田機能の維持・強化を図りながら、生産性向上のため、一定期間の湛水管理やブロックローテーションを取り入れた、稲作・畑作の輪作体系を構築していくよう推進を行う。なお、ブロックローテーションの導入にあたっては、作物の収量・品質の低下や、農地の排水性等の悪化が懸念されるため、現場の課題を検証しつつ、各関係機関と連携し検討していく。また、畑作物の生産が定着しており、今後水張りを予定していない水田については、畑地化による生産性の向上を検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

良品質米生産の徹底により産地としての地位を確保する。また、需要動向や実需の意向を踏まえた生産を行う。

(2) 備蓄米

生産者の作付意向を把握し、需要量に応じた生産を行う。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

今後の需要動向及び多収性品種の育種状況等を見据えた中で、直播栽培を取り入れ

るなど省力化等の生産コストの削減を図りながら、生産者の作付意向を把握し、需要量に応じた生産を行う。

イ 米粉用米

生産者の作付意向を把握し、需要量に応じた生産を行う。

ウ 新市場開拓用米

生産者の作付意向を把握し、需要量に応じた生産を行う。

エ WCS 用稲

生産者の作付意向を把握し、需要量に応じた生産を行う。

オ 加工用米

生産者の作付意向を把握し、需要量に応じた生産を行う。

(4) 麦、大豆、飼料作物、てん菜、小豆、そば、なたね

麦については、輪作体系上の作付の偏重による病害虫の発生により、収量及び品質の低下、圃場間・生産者間での生産性等の変動が見られる状況にあり、格差の是正が地域の課題となっているため、病害の予察・予防の徹底により被害を最小限に抑え、産地としての信頼性を守るとともに、収益性の向上を図る必要がある。

大豆、飼料作物、てん菜、小豆、そば、なたねについては、作付を推進し、輪作体系上の小麦作付への偏重からの脱却を図る。また、省力化技術の導入を支援することにより、労働力不足を解消し、需要に応じた生産を図りつつ計画的な作付を促す。省力化技術の導入が困難な圃場や生産者については、土壌分析に基づく適切な肥培管理を実施し、収益性の向上を目指す。加えて、なたねの作付にあたっては、殺虫剤による防除を実施し、課題となっている虫害の低減を図り、作付の推進に係る産地の合意を形成する。

また、小麦収穫後の地力増進作物作付により、小麦を中心とした輪作体系を構成する転作作物の収量及び品質の低下、排水不良や土壌伝染性の病害等に対応し、一層の産地形成に取り組む。

(5) 地力増進作物

「北海道緑肥作物等栽培利用指針（改訂版）」（平成16年3月策定）等に基づく地力増進作物の作付により、作物の連作障害の回避や透水性の向上、化学肥料の削減に努めることで、収量及び品質の向上、低コスト生産等による収益力の強化を図る。

なお、地力増進作物については、別紙「地力増進作物の具体的品目一覧（圃場環境保全助成）」および「地力増進作物の具体的品目一覧（輪作確立支援助成・小麦品質向上加算）」に定めるものとする。

(6) 高収益作物

キャベツをはじめ、多様な作物が生産されていることから、今後においても作付面積の維持による安定的な供給により、更なる産地強化を図ると共に、作付面積の維持、品質向上を図る。また、高収益作物の二毛作を支援することにより、作付面積の維持・拡大を図ると共に、農地の高度利用による収益力の強化を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1693.1	0.0	1742.3	0.0	2040.0	0.0
備蓄米	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飼料用米	197.3	0.0	230.8	0.0	22.0	0.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	4.4	0.0	3.4	0.0	2.0	0.0
WCS用稲	0.9	0.0	40.8	0.0	0.0	0.0
加工用米	17.9	0.0	10.3	0.0	20.0	0.0
麦	1763.1	0.0	1761.0	0.0	1617.0	0.0
大豆	606.9	0.0	622.4	0.0	660.0	0.0
飼料作物	49.4	0.0	63.3	0.0	63.0	0.0
・子実用とうもろこし	45.7	0.0	59.6	0.0	59.6	0.0
そば	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	71.9	0.0	51.4	0.0	57.0	0.0
地力増進作物	181.3	0.0	110.0	0.0	50.0	0.0
高収益作物	187.4	7.9	202.1	20.0	205.5	20.0
・野菜	185.7	7.9	198.8	20.0	202.5	20.0
・花き・花木	1.7	0.0	3.3	0.0	3.0	0.0
・果樹	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・その他の高収益作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	153.4	0.0	124.4	0.0	138.5	0.0
・てん菜	89.5	0.0	74.0	0.0	74.0	0.0
・小豆	63.6	0.0	50.4	0.0	62.0	0.0
・その他	0.3	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
畑地化	0.0	0.0	29.6	0.0	29.6	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	
				前年度（実績）	目標値
1	小麦	小麦病害予防予察助成	なまぐさ黒穂病による廃耕面積 作付面積 調査取組率 縞萎縮病発生面積	4年度：0.03ha 4年度：1,763.1ha 4年度：100% 4年度：114.8ha	5年度：0ha 5年度：1,617.0ha 5年度：100% 5年度：170.0ha
2	小麦	小麦品質向上加算	作付面積 品質向上の取組及び地力増進作物作付面積	4年度：1,763.1ha 4年度：328.8ha	5年度：1,617.0ha 5年度：360.0ha
3	大豆	大豆振興助成	作付面積 省力化取組面積 単収	4年度：606.9ha 4年度：522.7ha 4年度：261.6kg/10a	5年度：660.0ha 5年度：562.0ha 5年度：290.0kg/10a
4	飼料作物	飼料作物振興助成	作付面積 省力化取組面積 子実用とうもろこし単収	4年度：49.4ha 4年度：45.7ha 4年度：865.0kg/10a	5年度：63.0ha 5年度：58.0ha 5年度：800.0kg/10a
5	なたね	なたね振興助成	作付面積 省力化取組面積 単収	4年度：71.9ha 4年度：65.4ha 4年度：454.9kg/10a	5年度：57.0ha 5年度：57.0ha 5年度：395.0kg/10a
6	野菜、花き	高収益作物振興助成	作付面積	4年度：179.4ha	5年度：185.5ha
7	てん菜	てん菜振興助成	作付面積 省力化取組面積 単収	4年度：89.5ha 4年度：81.5ha 4年度：6,981.1kg/10a	5年度：74.0ha 5年度：67.0ha 5年度：8,300.0kg/10a
8	小豆	小豆振興助成	作付面積 省力化取組面積 単収	4年度：63.6ha 4年度：32.6ha 4年度：209.8kg/10a	5年度：62.0ha 5年度：44.0ha 5年度：271.0kg/10a
9	地力増進作物	輪作確立支援助成	3カ年以上の秋小麦連作圃場面積 作付面積	4年度：280.2ha 4年度：43.0ha	5年度：280.0ha 5年度：50.0ha
10	地力増進作物	圃場環境保全助成	作付面積	4年度：126.0ha	5年度：70.4ha
11	高収益作物 （野菜品目に限る）	高収益作物作付助成 （二毛作）	作付面積	4年度：7.9ha	5年度：20.0ha
12	そば	そば作付助成 （追加配分）	作付面積	4年度：0ha	5年度：3.0ha
13	なたね	なたね作付助成 （追加配分）	作付面積	4年度：71.9ha	5年度：57.0ha
14	新市場開拓用米	新市場開拓用米作付助成 （追加配分）	作付面積	4年度：4.4ha	5年度：2.0ha
15	新市場開拓用米	新市場開拓用米の複数 年契約加算 （追加配分）	取組面積・数量 複数年契約取組面積・数量	4年度：4.4ha・24,240kg 4年度：0.3ha・1,800kg	7年度：3.0ha・16,560kg 7年度：1.5ha・8,280kg

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要
 都道府県名: 北海道
 協議会名: 南幌町農業再生協議会

新様式(公表用)

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	小麦病害予防予察助成	1	5,025	小麦	病害の予防・予察への取組
2	小麦品質向上加算	1	2,700	小麦	品質向上及び麦後地力の取組等
3	大豆振興助成	1	6,025	大豆	省力化技術の導入・単収向上の取組等
4	飼料作物振興助成	1	5,425	飼料作物	省力化技術の導入・単収向上の取組等
5	なたね振興助成	1	21,025	なたね	省力化技術の導入・単収向上の取組等・防除の実施
6	高収益作物振興助成	1	52,025	野菜・花き	対象作物の作付
7	てん菜振興助成	1	44,525	てん菜	省力化技術の導入・単収向上の取組等
8	小豆振興助成	1	42,025	小豆	省力化技術の導入・単収向上の取組等
9	輪作確立支援助成	1	17,025	地力増進作物	後作の収益力向上に資する地力増進作物の作付
10	圃場環境保全助成	1	17,025	地力増進作物	圃場環境を良好に保つための地力増進作物の作付
11	高収益作物作付助成(二毛作)	2	13,500	高収益作物(野菜品目に限る)	小麦収穫後の高収益作物(野菜)の作付
12	そば作付助成(追加配分)	1	20,000	そば	対象作物の作付
13	なたね作付助成(追加配分)	1	20,000	なたね	対象作物の作付
14	新市場開拓用米作付助成(追加配分)	1	20,000	新市場開拓用米	対象作物の作付
15	新市場開拓用米の複数年契約加算(追加配分)	1	10,000	新市場開拓用米	実需者との複数年契約(3年以上)に基づく生産(R5年度新規契約分のみ対象)

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
 ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
 なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。
 ※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。
 ※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
 ※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。